

新青森県基本計画（仮称）素案の概要について

平成16年8月23日

青森県総合開発審議会
基本計画策定委員会

新青森県基本計画（仮称）素案の概要

1 基本計画の目的と特徴等（P 2）

基本計画策定の目的

基本計画の特徴

計画の期間

2 青森県の課題（P 3）

青森県を巡る環境変化

安全・安心の確保

閉鎖性の打破

依然として厳しい雇用、地域経済の状況

暮らしやすさのさらなる向上

従来型行政からの転換

3 青森県がめざす将来像（基本構想、P 4）

青森県づくりの基本的な考え方

青森県がめざす5つの姿（将来像）

いきいきと働ける豊かな社会

健やかで安心して暮らせる社会

環境と共生する循環型社会

安全・安心で快適な社会

青森の豊かさを知り、夢をもって未来を拓く社会

5つの社会像を実現するための仕組みづくり

4 県民と県の取り組みの基本方向（P 5～P 9）

5 計画の推進に向けて県が重視すべき考え方や重点推進プロジェクト（P 10）

6 計画の推進に向けて（P 11）

情報の共有と生活者参画による地域づくりの推進

経営視点に立った不断の行財政改革の推進

計画の推進に向けた新たな仕組みづくり

1 基本計画の目的と特徴等

基本計画策定の目的

・新青森県長期総合プラン策定後、我が国を取り巻く社会経済環境は大きく変化し、本県においても、長引く景気低迷を背景とした雇用情勢や財政環境の悪化等により、これまでのような経済的価値観の延長線上に本県の将来ビジョンは描けない状況にある。

・このような大きな転換期にあって、県民がこうありたいと願う概ね10年後の将来像と、それを実現するために県と県民がともに取り組む方向を示し、地域に賦存する様々な資源や人材、ネットワークを総動員して「地域力」を最大限に生かし、新しい付加価値を創造していくことが重要である。

・このためには、これまで築いてきた社会基盤や本県の特性を積極的に活かしながら、県民とともに新たな時代を切り拓いていくための指針として、「新青森県基本計画」を策定することが不可欠である。

基本計画の特徴

・県と県民とがともに取り組む方向を示す計画であること。

・取組みを進めていく上で、県民、市町村、企業、団体などそれぞれに期待される役割を示した計画であること。

・財革プランを着実に進める中、今後5年間、県として重点的に取り組むべきプロジェクトを示した計画であること。

計画の期間

・平成16年度から平成20年度まで

2 青森県の課題

青森県を巡る環境変化

経済のグローバル化や地域
経済の構造変化

少子・高齢化の進展

地方分権の進展

環境問題への意識の高まり

情報ネットワーク社会の進展

依然として厳しい雇用、地域経済の状況

- ・ 県民1万人を対象にしたアンケート調査では、雇用に関する項目について県民の不満度が最も高い
- ・ 有効求人倍率は31カ月連続で全国最下位、高校新卒者の未就職者数も16年3月卒業生で170人と3年連続で100人の大台を上回る厳しさ
- ・ 企業倒産は依然高い水準で推移、特に構造変化に直面している建設業の倒産が多発
- ・ 以上から、きびしい雇用、地域経済の活性化は、本県の大きな課題

安全・安心の確保

- ・ 1万人アンケート調査で、雇用以外で県民の不満度が高かったのは、「安心な街づくり」「安心して子育てできる環境づくり」「地域安全対策」「医療」「原子力施設の安全対策」、一方、最も高い満足度だったのは「安全な食品がかえること」
- ・ 共通する言葉は「安全・安心」、これまで当たり前のことのようにとらえられてきた「安全・安心」に県民は高い関心
- ・ このことから、生活面での基盤である「安全・安心」に対応していくことが重要

暮らしやすさのさらなる向上

- ・ 1万人アンケート調査で審議会の目をひいた項目は「住んでいる地域の住みやすさ」、県民の半分以上の人が満足しており満足度では2番目
- ・ 住みやすさは、経済的な価値では表すことができない総合的なもの、私たちの住む青森県は、食・住・遊それぞれに、そして四季折々に、多彩なライフスタイルの展開が可能な地域、時には生活を制約する冬の雪も生活に彩りを添え、生活を楽しむことにかけては、多くの名人が存在
- ・ 自然環境や生活環境が年々悪化している現代社会の中で、住みやすさに満足感をもっている県民の現状は、今後の青森県を考えていく上で大きな優位点

閉鎖性の打破

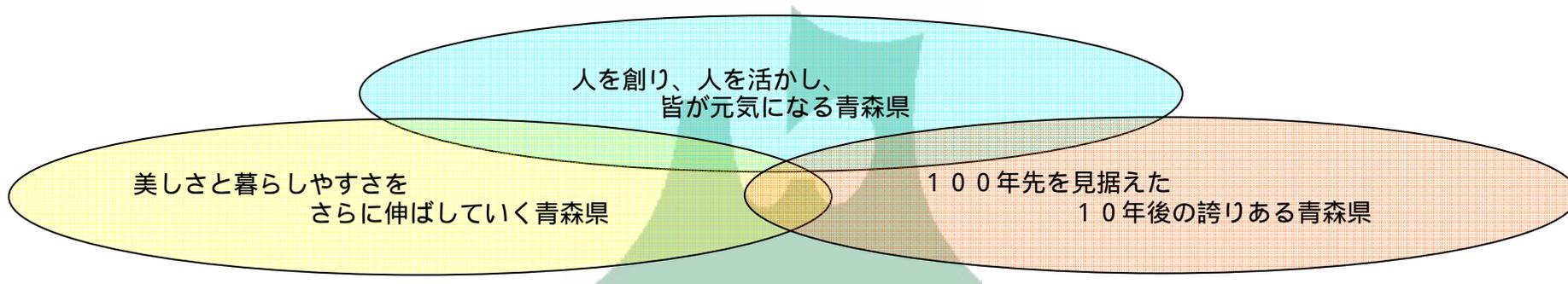
- ・ これまでの青森県は、青森をよくするための発言や行動することへの評価、認め合うことに閉鎖的な面あり
- ・ 激変する時代環境の中で青森県を次世代に引き継いでいくには、青森のよさを生かし、旧弊を克服しながら新しい価値を創出していくことが必要
- ・ 閉鎖的だったところの持ち方や地域の土壌を変えていくことが必要

従来型行政からの転換

- ・ 景気停滞や国の三位一体改革により本県財政は悪化、県は15年11月に財政改革プランを作成し、16年からの5年間で環境変化に柔軟に対応できる財政構造を目指す
- ・ 加えて、16年4月から財政改革プランに引き続く「第二弾の行政改革」として、新たな行政改革大綱に着手
- ・ これまで県財政は、公共投資による景気の下支えや県民福祉、県民生活向上の支援など、県民生活を支え「頼られる存在」としての役割を果たしてきたが、財政面での制約から、これまでのような行政の姿は限界に達し、行政（県）の役割やその関わり方について考える必要

3 青森県がめざす将来像（基本構想）

青森県づくりの基本的な考え方



青森県がめざす5つの姿

いきいきと働ける
豊かな社会

地域経済が立て直されて新たな活力が生まれ、都市（まち）や村やひとがいきいきしている社会です。

健やかで安心して
暮らせる社会

だれもが心と体の健康を支えられ、生きがいと誇りを持って生活できる社会です。

環境と共生する循
環型社会

環境と生活や経済を調和させることに意欲的に取り組む、環境の先駆けとなる社会です。

安全・安心で快適
な社会

安全・安心がしっかりと確保され、美しく伸びやかな社会です。

青森の豊かさを知り、夢をもって未来を拓く社会

青森県の良さと可能性を知り、次代を担う人づくりが進められていく社会です。

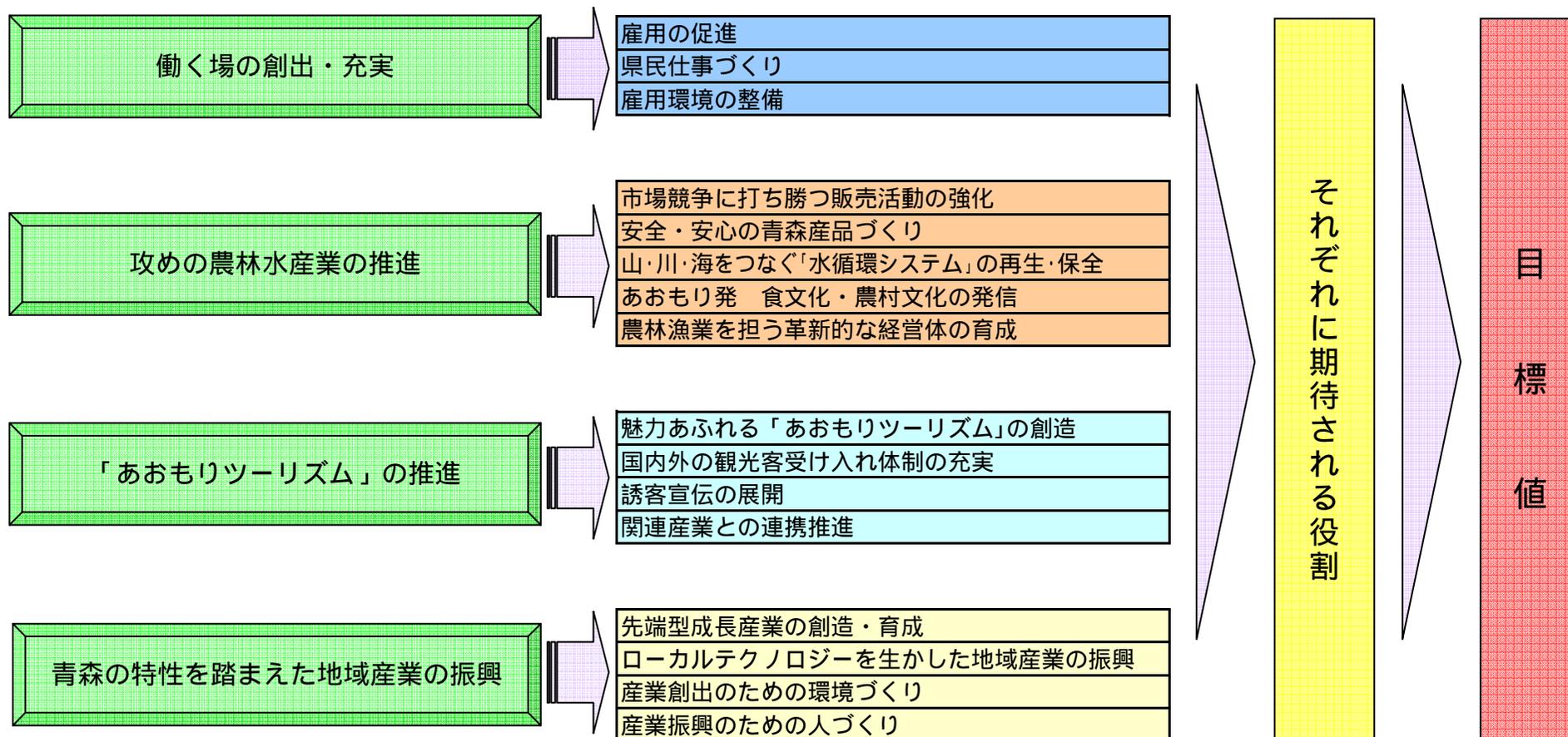
5つの社会像を実現するための仕組みづくり

4 県民と県の取り組みの基本方向

いきいきと働ける豊かな社会

〔 政策 〕

〔 施策 〕



健やかで安心して暮らせる社会

〔 政策 〕

〔 施策 〕

健康寿命アップの推進

県民健康づくり運動の推進
高齢者の介護予防の推進

医療サービスの充実

医療を支える人材の確保とパワーアップ
医療機関の機能分担と連携の推進

親と子の健やかな育ち合いの推進

子どもの心身の健やかな成長を育む環境づくり
地域・社会全体で子育てを支えあう環境づくり
親と子の健康の確保と増進

誰もが生きがいを持ち
自立して生活できる環境づくり

地域で安心して生活できる支援サービスの推進
生きがいづくりと社会参加の促進
高齢者、障害者の尊厳を守るサポート体制の整備

保健・医療・福祉包括ケアの推進

保健・医療・福祉包括ケアシステムの推進
人材の確保・育成

それぞれに期待される役割

目標値

環境と共生する循環型社会

〔 政策 〕

〔 施策 〕

水と緑の自然環境づくり

水環境の保全
自然環境の保全と活用

ゼロエミッションを目指す
資源循環の推進

資源循環の環境づくりと技術開発の推進
廃棄物の減量・リサイクルの推進
地域資源を活用した新エネルギーの導入
省エネルギーの推進

廃棄物処理・公害防止対策の推進

廃棄物の適正処理・不法投棄対策の推進
公害のない生活環境づくり

多様な主体による環境保全活動の推進

環境教育・環境学習の推進
環境パートナーシップの形成

それぞれに期待される役割

目標値

安全・安心で快適な社会

〔 政策 〕

〔 施策 〕



青森の豊かさを知り、夢をもって未来を拓く社会

〔 政策 〕

〔 施策 〕

子どもたちの生きる力と夢を育む
教育の推進

青森を知る教育の推進
個性豊かな人づくりを目指す教育の推進

地域の教育力を高める
環境づくりの推進

生涯学習環境の整備
地域の教育力を高める仕組みづくりの推進

文化・スポーツの振興と
国際交流の推進

芸術文化の振興
青森の歴史・文化の発信
生涯を通じてスポーツに親しむ環境づくりの推進
広い視野を育てる国際交流の推進

それぞれに期待される役割

目
標
値

5つの社会像を実現するための仕組みづくり

〔 政策 〕

〔 施策 〕

男女共同参画社会の推進

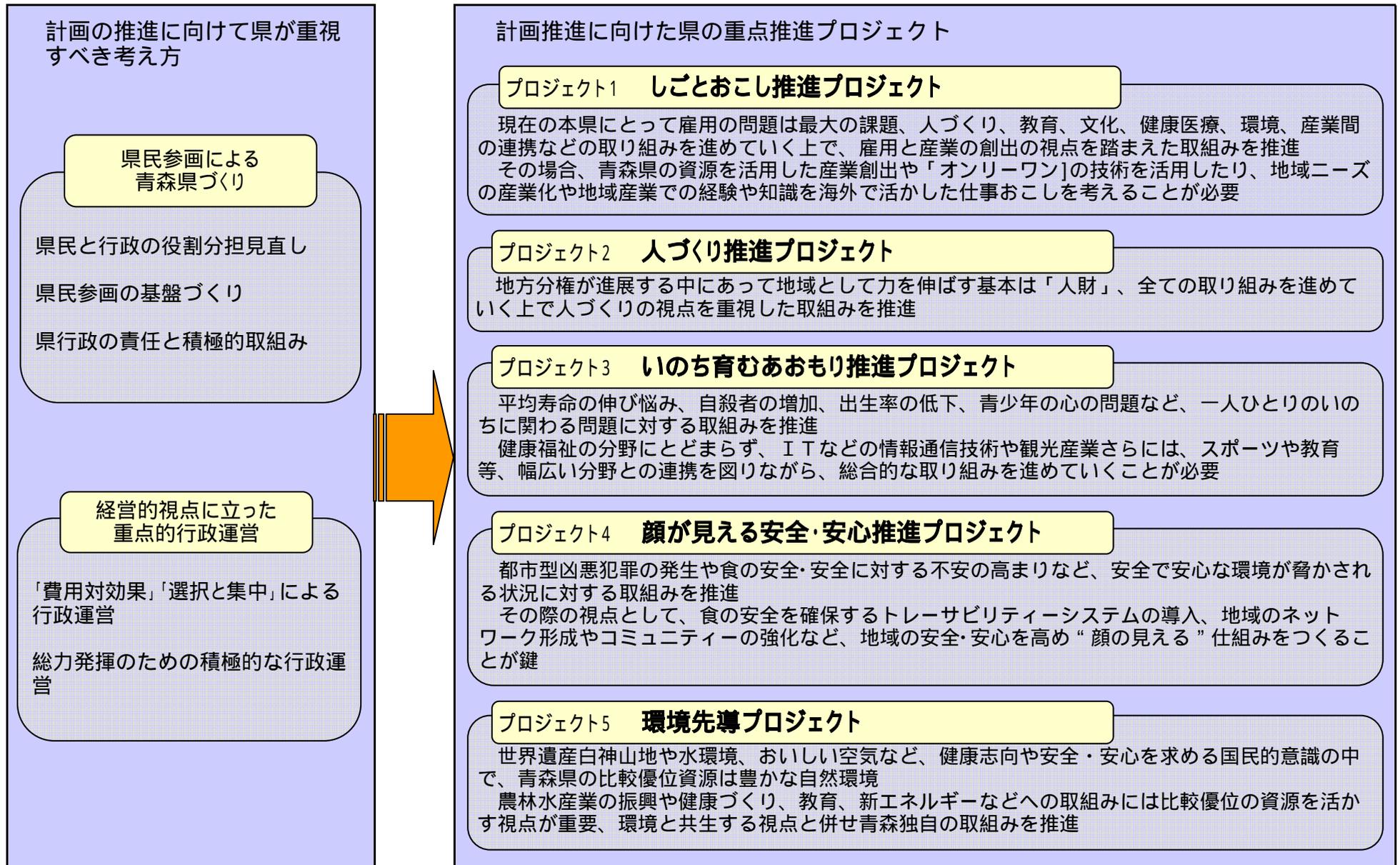
社会参加と協働の促進

県民の社会参加の促進
県民と行政のパートナーシップの構築

そ
れ
ぞ
れ
に
期
待
さ
れ
る
役
割

目
標
値

5 計画の推進に向けて県が重視すべき考え方や重点推進プロジェクト



6 計画の推進に向けて

